

(様式3)

グループホーム 宝寿の家

作成日: 平成 23 年 2 月 22 日

目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	入居者一覧表には、身元引受人の名前や連絡先、生年月日等が明確になるよう記載されているが、主治医の記載がない。入居者ファイルには主治医を含め既往歴や服用されている薬等直ぐにわかるように記載されている。ただ、一覧表となっていないため、分かりづらい面がある。	職員全員が直ぐに利用者の状態を確認でき、主治医に伝える体制を取る。	入居者ファイルの記載はあるが、一覧表への記載がないため、直ちに一覧表への記載を行い、スタッフ全員が直ぐに確認できる体制を取る。また、協力病院との受診表も冊子に綴り経過を把握できるようにする。	1ヶ月
2	1	理念はあるものの現在の職員が関わって作成したものではないため、理念としての意識付けはできていない。認知症ケアを実践していくに当たってスタッフ間での共有の理念が必要だと感じている。	現在の職員にて自施設のケアを振り返る機会を捉え、新しい理念作りを行う。また、あらゆる機会を通じて新しい理念が定着し、実際のケアに活かされるように取り組んでいく。	月1回開催しているスタッフ会議やカンファレンスの機会を利用し、現在の職員にて理念作りを行う。その際、自らの認知症ケアに対する思いや考え方を振り返りながら、新しい認知症ケアの実践が構築できるように、ある程度の時間を掛けて取り組んでいく。	6ヶ月
3	11	正職員に対しては、半期に1度評価面接や自己の目標設定を行う等面接の機会を確保しているが、臨時職員やパート職員に対しては面接の機会を設けていない。そのため、不安感が生じ易いのではないかと考えられる。	全職員に対して、定期的に面接の機会を設ける。職員自らの意見を述べたり、自らの認知症ケアの振り返りの機会と捉え、職員の意見を反映させる機会と共に意識付けの向上に繋げていく。	全職員に対して、半期に2度のペースで面接の機会を設ける。自身の認知症ケアに対する振り返りの機会とすると共に自らの意見や提案を率直に吐露できる機会とし、資質向上に繋げる場面としていく。	2ヶ月
4	52	利用者が安心して過ごして頂けるよう、一般家庭に近い環境となるよう取り組んでいるものの季節を感じていただける環境作りとしては、カレンダー程度に留まっている。季節感が曖昧になっている利用者により季節に応じた環境作りを提供していくことが必要と考えている。	春・夏・秋・冬といった一年の季節の流れを、季節感が曖昧になられている利用者を感じていただけるよう、廊下の壁やリビングの壁を利用して季節がわかるような掲示物を掲示していく。	掲示物担当のスタッフをスタッフ会議にて選定した。季節に応じた行事を実施しており、その際に撮影した写真をその都度掲示していくことを確認した。	1ヶ月
5					ヶ月